

生分解性マルチ

野菜花き試験場

ニュースなどでご存じのとおり、7月1日より、プラスチック製買物袋（いわゆるレジ袋）が有料化されました。これは、政府の「普段何げなくもらっているレジ袋を有料化することで、それが本当に必要かを考えていただき、私たちのライフスタイルを見直すきっかけとする」という方針のもと、近年問題化している海洋プラスチック汚染をはじめ、プラスチックごみ削減に向けた対策の一つとされています。国際的にも、中国が2017年12月に廃プラスチックの受入れを中止し、アジア諸国も次々と追従しました。これにより日本国内の廃プラ処理費用も高騰したため、環境省は2018年にプラスチック資源循環戦略小委員会の設置を決定し、廃プラスチック削減、脱炭素社会に向けた動きを加速しています。

本県の農業用廃プラスチックの排出量は、6,002tで全国第5位（平成20年度）、中でも被覆資材の「ポリマルチ」が大きな割合を占めています。本県は全面マルチ栽培による葉野菜類の栽培が盛んで、全国的にもポリマルチの使用量が多く、農業用廃プラスチック全体の73%を占めています。このような背景から近年、農業分野での廃プラスチック削減対策の一つとして、生分解性マルチが再び注目されるようになってきています。生分解性マルチはポリマルチと同様に地温上昇、水分保持、雑草抑制が期待されます。一方、栽培終了後は土壤中にすき込むことで、微生物によって、水と二酸化炭素に分解されるため、省力化及び環境負荷軽減が期待されるものです。

現在、生分解性マルチは主にスイートコーンで利用されており、その他の品目



生分解性マルチ試験の様子

での利用はわずかです。品目拡大に向けて、野菜花き試験場では今年度、レタス栽培での試験を実施しています。7種の生分解性マルチとポリマルチ、無マルチでレタスを栽培し、収量、地温、土壌水分、機械作業性などを調査して、その実用性を評価する予定としています。また、県園芸作物生産振興協議会では、レタスのほかにもジュース用トマトでの実証を行い、生分解性マルチの普及を進めていく予定です。

担当者

保勇 孝亘

電話番号

0263-52-1148

[試験場ニュースへ](#)